



(公財) 福井県健康管理協会
県民健康センター所長 松田 一夫

健康ひとくちメモ

経営者・従業員のための

日本の大腸がん死亡はなぜ減らないのか？

2019年の人口動態統計によれば、大腸がんによる死亡者数は男性では肺がん、胃がんに次いで第3位、女性では第1位、男女合計では肺がんに次いで第2位です。また、2017年に診断された数では大腸がんは第1位となっています。

大腸がんの原因は？

牛肉・豚肉や加工肉を多く摂ると大腸がんの危険性が高まりますが、日本人は大腸がんになるほど多くの肉を食べていません。私たちにとって、大腸がんの危険性を高める最大の要因は加齢であり、他に肥満、飲酒、喫煙が挙げられます。逆に運動すれば大腸がんの危険性を引き下げることが出来ます。

諸外国との死亡率の比較

日本は世界有数の長寿国ですから、加齢とともに増える大腸がんの死亡率が高くても不思議ではありません。そこで、日本と諸外国の年齢構成を基準人口の年齢構成に揃えた年齢調整死亡率で比較すると、日本

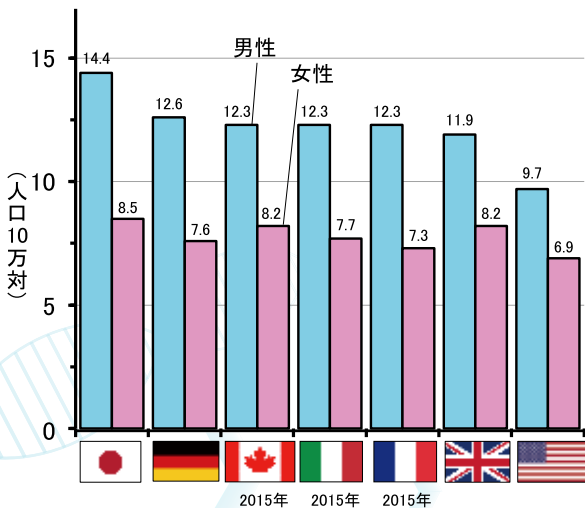
の大腸がん死亡率は先進7か国の中でもっとも高くなっています。日本人が諸外国の方より肥満や酒飲みとは思えませんので、日本の大腸がん検診が諸外国ほど効果を発揮していない可能性が考えられます。

大腸がん検診の方法

大腸がん検診の方法は、①便潜血検査②大腸内視鏡検査です。ヒトの血液のみに反応する免疫便潜血検査は日本で開発され、今や世界中で大腸がん検診として採用されています。ところが、本家本元の日本では、大腸がん検診開始から30年経過したものの、海外ほどの効果がみられません。理由としては、便潜血が陽性となっても3割の方が内視鏡による精密検査を受けていないからです。便潜血検査は想像以上に正確です。「痔のせい」と考えず、必ず精密検査を受けてください。

米国では、10年に1回の内視鏡による大腸がん検診が広く行われ、着実に大腸が

先進国7か国の年齢調整大腸がん死亡率(2016年)
(WHO Cancer Mortality Databaseより作図)



ん死亡を減らしています。日本でも生涯に1回は、すべての人が大腸内視鏡検査を受ける時代が来そうです。

大腸がん検診を受けよう

大腸がんで命を落とさないためには、まず便潜血検査を受け、「便潜血が陽性」になったら、必ず内視鏡検査を受けましょう。新型コロナウイルス感染症が、医療機関は感染予防を徹底しています。精密検査を躊躇しないでください。